

自己評価結果公表シート（平成28年度）

むさしこども園

1、園の保育教育目標

『すこやかな体 ゆたかな心 を育てる』
乳幼児期の育ちは、生涯にわたる人間としての健全な心身の発達や社会の変化に主体的に対応しうる能力を培い、生涯学習の基礎となる重要な時期であり、個人差・環境差・生育歴に十分こころをくばり、集団生活を通して、養護と教育とが一体となって豊かな人間性をもった子どもの育成を計ります。
したがって、次のような子どもを育てたいと願っています。

- ① 健康な心と体の子ども
- ② 決まりの大切さを知り、友達と協力し、思いやりのある子ども
- ③ 自信をもって取り掛かり、それを生活に取り入れ、命の大切さを知る子ども
- ④ 自然体験、社会体験など具体的な生活体験をし、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力のある子ども

2、本年度（H29年度）、重点に取り組む目標・計画

『観察しよう2～遊び込める環境・素材とは？～』本園の保育・教育課程の内容を確認し、保育者の共通理解を図り、保育の質を高めると共に、保護者・地域ニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、本園が今後担う役割について検討する。

3、H28年度：評価項目の達成及び取組み状況

自己点検評価項目	取組状況
(1) 保育の計画性 ①園の保育・教育理念、方針の理解 ②保育・教育課程の編成 ③指導計画の作成 ④環境の構成 ⑤保育と計画の評価・反省	H28年度の目標を「観察しよう！～子どもの興味・関心はどこに？～」とし、『遊びの重要性』を再確認しながら、“15:30からのミーティング”を必ず行い、保育の計画性を上げるように努めた。 「運営部」・「保育環境部」・「行事研修部」・「食育推進部」の部署会議を月1回実施し、職員間の共通理解に努めている。
(2) 保育のあり方、子どもへの対応 ①健康と安全への配慮 ②子どものみとり理解 ③指導とかかわり ④保育者同士の協力・連携	『遊びの重要性』を再確認するよう園長が呼びかけ、「運営部」・「保育環境部」・「行事研修部」・「食育推進部」と組織として考えた。 “自由に遊べる環境”“先生の受容的な関わり”を目指す。
(3) 先生としての資質や能力・良識・適性 ①専門家としての能力・良識・義務 ②組織の一員としての在り方 ③保育の楽しみ・喜び	先生としての意識・良識・マナー・義務等を再確認し、日々の保育への楽しみや喜びを感じ取れるよう自己研鑽に努めている。 毎週金曜日の「ラーニングストーリー」をすることで保育の振り返りをした。
(4) 保護者・地域への対応 ①情報の発信と受信 ②協力と支援 ③守秘義務の遵守 ④対応上のマナー・良識	H28年度は、“日常保育の公開”を実施しました。また「ラーニングストーリー」を保護者に公開し、園での保育を情報発信した。 「園だよりの発行」、「むさしっ子 Times」のメール送信を行い、情報発信に努めた。「アンケート」も実施し、出された意見に対し改善すべきものは改善するように努めた。
(5) 研修と研究 ①研修・研究への意欲・態度 ②先生としての専門性に関する研修・研究 ③自らを高めるための学習	園内部署会議（月1回） ・職員会議（月1回） ・園内研修（年3回） お互いの保育を見直し、よりよい保育環境を指摘し合うように努めている。 15:30からのミーティングで子どもの姿を振り返り、毎週金曜日に「ラーニングストーリー」として保育を振り返るように努めた。
(6) 事故リスクの軽減 ①0歳児の事故防止 ②1歳児の事故防止 ③2歳児の事故防止 ④3歳児の事故防止 ⑤4歳児の事故防止 ⑥5歳児の事故防止	「生命の尊重」を第一に考え、事故防止に努める。 「ブロック長会議」を中心に、事故・ケガの分析を進め、「事故防止の観点」と「子どもの体づくりの観点」を大切にし、「遊び」を深めることに努めた。

4、自己点検評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

H28年度は「遊びを中心とした保育」を力強く展開できました。今年度の目標を「観察しよう！～子どもの興味・関心はどこに？～」とし、毎日の保育を振り返る時間を作り、保育内容について考え直しました。遊びの中で育つ子どもの姿を“観察”しました。

5、今後（H29）取り組む課題

課題	具体的な取組み方法
『遊び』の考察	H29年度の目標を『観察しよう2～遊び込める環境・素材とは？～』とし、さらに子どもの遊ぶ姿を観察し、のめり込める環境や素材を研究したいと考えています。 “13:30からの振り返り”“ラーニングストーリー”に力を入れたい。
安全管理・点検	昨年は園の擁壁が崩落しました。毎月、遊具・保育環境の点検を行う。また「地震・津波マニュアル」の確認と「救急救命講習」を実施し、子どもの安全管理に努める。
職員会議の実施	職員会議の実施時間を再考します。より良い勤務体系を確立します。
放課後児童クラブの運営	3年目。子どもたちが安心できる空間を目指す。 クラブの活動を振り返りながら、支援員の研修に力を入れたい。

6、第三者委員会の意見

委員会を年3回実施し、園内でのケガ・苦情の対応と特に指摘する事項はなく、妥当である。

7、財務状況

園舎建設の借入金はあるが、公認会計士監査、大分県の指導監査により、適正に運営されていると認められている。